

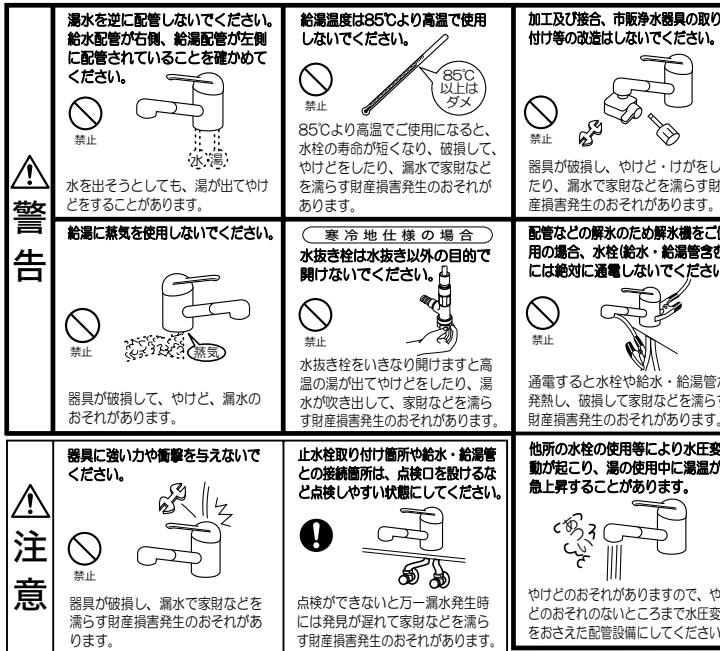
■施工前にこの施工説明書を必ずお読みのうえ、正しく施工してください。
この施工説明書と取扱説明書は必ずご使用になるお客様の方で保管してください。

安全上のご注意

- ここに示した **△警告** は誤った取扱いをすると、死亡または重症に結び付く可能性があります。
- ここに示した **△注意** は誤った取扱いをすると、傷害または物的損害に結び付く可能性があります。
いずれも、安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。
- お守りいただく事項の種類を次の絵表示で区分し、説明しています。

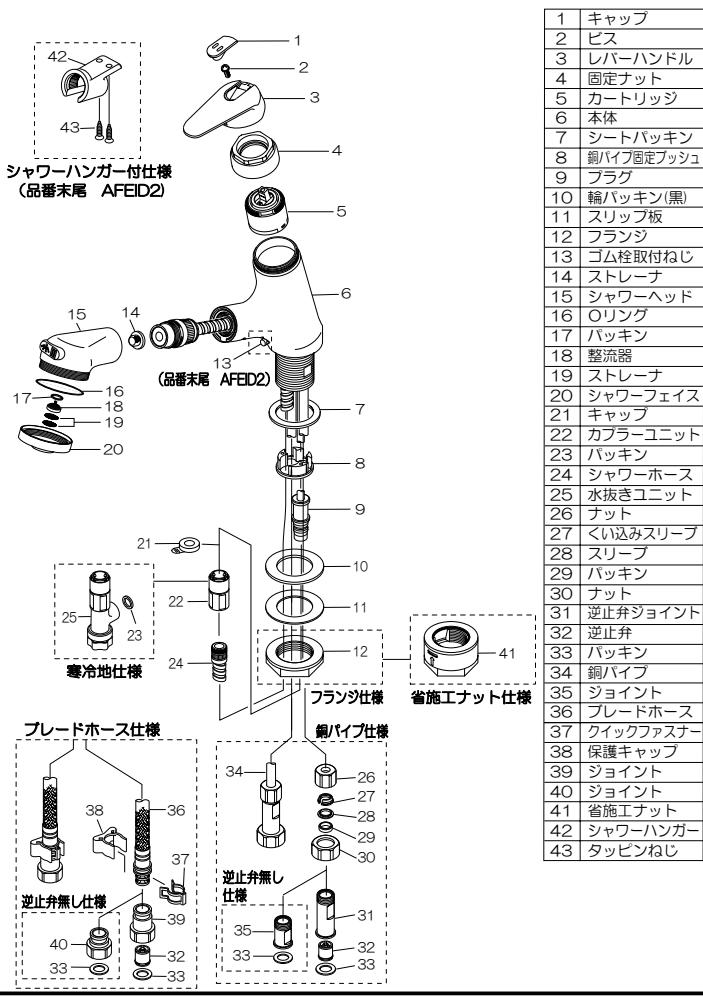
○この絵表示は、してはいけない「禁止」の内容です

○この絵表示は、必ず実行していただく「強制」の内容です



1ページ

分解図 部品の形状は仕様によって異なる場合があります。



3ページ



めっき部品は、ぶつけたり落としたりしないでください。また、銅和物や硬い物を当てないでください。



禁止

めっきの表面が割れて、けがをするおそれがあります。万一めっきの表面が割れた場合は、ただちに新しい部品に交換してください。

寒冷地仕様は、一般仕様をお使いの場合、少量の水を出しておくか、配管に布を巻くなどして、凍結を防止してください。寒冷地仕様をお使いの場合は配管の水抜き作業と水栓金具の水抜き操作を行ってください。



禁止

水抜きしないと凍結破損で漏水し、家のなどを漏らす財産損害発生のおそれがあります。

取り付け前に

① 使用水圧 [$A = (\text{給湯機の最低作動水圧}) + (\text{配管圧力損失})$]

(1) 瞬間給湯機との組み合わせ (設定条件 水温: 25°C 給湯機温度調節: 高温 吐水温度: 42°C ハンドル全開)

[比例制御式] 最低必要水圧: $A+0.10\text{MPa}$ (動水圧)、最高水圧: 0.75MPa (静水圧)

(2) 貨湯式給湯機との組み合わせ

[給湯・給水圧力] 最低必要水圧: $A+0.05\text{MPa}$ (動水圧)、最高水圧: 0.75MPa (静水圧)

② レバーハンドルは全開で使用してください。給湯機が着火しない場合があります。

③ 給水圧力は給湯圧力より高くするか、同圧になるようにしてください。

④ 給水圧力が 0.3MPa から、 0.75MPa までは止水弁で流量調節してください。

⑤ 給水圧力が 0.75MPa を超えるときは、市販の減圧弁で、 0.2MPa 程度に減圧してください。

⑥ 給湯機の絶温温度は、安全のため 60°C 湯をおすすめします。

⑦ 給湯機からの配管は最短距離で配管し、配管には保温材を巻いてください。

⑧ 使用条件を加味して適正な能力の給湯機を選ばないで、適正な吐水量及び吐水温度が得られないことがあります。

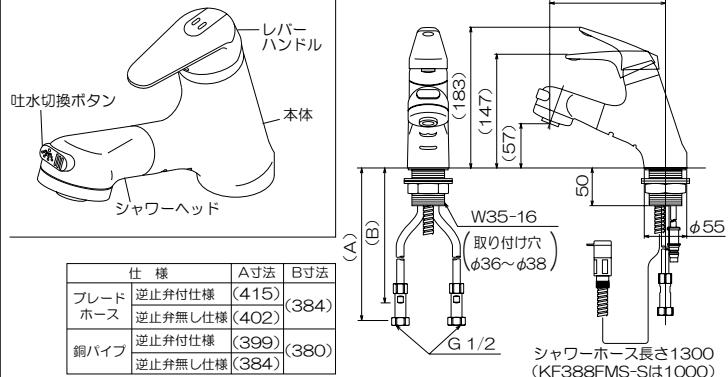
⑨ 本製品は改造(加工及び接合、市販浄水器具の取り付け等)によるトラブルについては、保証の限りではありません。

⑩ シャワーホースを伝って水がキャビネット内に浸入するおそれがあります。水受けトレーの設置をしてください。

⑪ 通水検査をしていますので器具内に水が残っている場合がありますが、製品には問題ありません。

取り付け完成図と各部の名称 / 寸法図

取り付け完成図と各部の名称



2ページ

取り付け手順 1

1 給水管内の清掃 配管工事後、必ず給湯・給水管内を清掃してください。

2 止水栓(別売)の取り付け

給湯管と給水管の間隔は $60\sim120\text{mm}$ で取り付けてください。

水受けタンク又はトレーパーを設置する場合は、水受けタンク又はトレーパーの寸法をご確認の上取り付けてください。

止水栓はストレーナ付が最適です。

寒冷地用は水抜き栓付止水栓を取り付けてください。

ストレーナ付止水栓 水抜き栓付止水栓 止水栓(別売) (60~120mm)

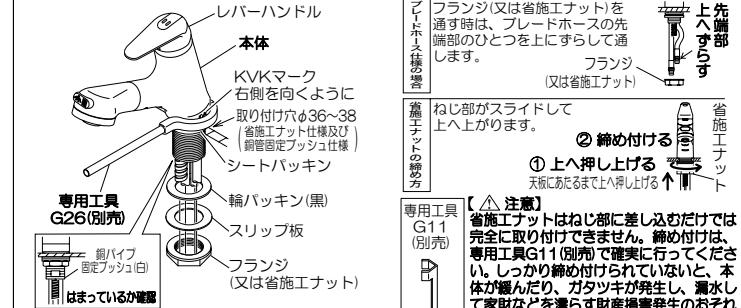
3 本体の仮固定 (ブレードホース仕様の場合は固定)

取り付け穴周囲の汚れを取り除いた後、KVKマークが向かって右側を向くように本体をフランジ(又は省施工ナット)で固定します。銅パイプ仕様の場合は仮固定し、ブレードホース仕様の場合は完全に固定します。又、銅パイプ固定ブッシュがしっかりとまっていることを確認してください。

外れている場合は、しっかりとはめ込んでください。

△ 注意

専用工具G26(別売)を使用して本体を保持してください。シャワーヘッド、レバーハンドルを持って締め付けますと破損のおそれがあるので、これらは持たないでください。



止水栓との接続 (銅パイプ仕様の場合①)

4-1 銅パイプの配管

止水栓と接続した場合、図1のように垂直部分が長くなるように取り付けます。

△ 注意

図2のような無理な配管はしないでください。

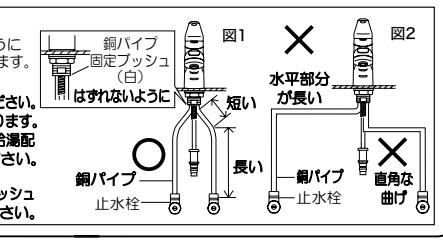
配管の抜けや亀裂や破損の原因となります。

銅パイプの抜け防止の為、給水・給湯配管は動かないように固定してください。

△ 注意

・銅パイプ固定ブッシュはねじ部に差し込むだけではなくて完全に取り付けできません。締め付けは、専用工具G11(別売)で確実に行ってください。

・しっかりと締め付けられていないと、本体が緩んだり、ガタツキが発生し、漏水して家財などを漏らす財産損害発生のおそれがあります。



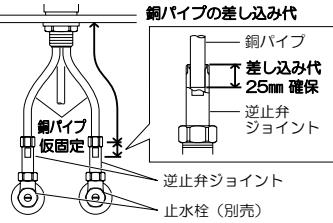
4ページ

取り付け手順2

止水栓との接続（銅パイプ仕様の場合②）

4² 止水栓との接続（逆止弁付仕様、逆止弁無し仕様共、接続方法は同じです。）

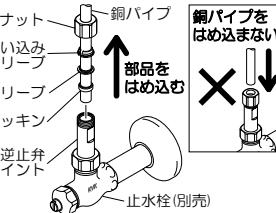
- 逆止弁ジョイントを止水栓に仮固定した後、銅パイプの必要な長さを測り、切断してください。このとき、パイプの差し込み代25mmを確保してください。
- 【お願い】**銅パイプの切断はパイプカッターをご使用ください。



- 逆止弁ジョイントから図の部品をはずします。ナット、くい込みスリーブ、スリーブ、パッキンの順に銅パイプにはめ込みます。

【△注意】

- 部品をはずして銅パイプにはめ込んでください。部品をはずさない状態で銅パイプを逆止弁ジョイントにはめ込むと、パッキンが切れ、漏水して家財などを漏らすおそれがあります。
- 部品は正しくはめ込んでください。特にパッキンがねじれた状態ですと、漏水の原因となります。



- 逆止弁ジョイントを銅パイプにはめ込んでから、止水栓と接続します。

【△注意】

- 接続は適切な工具(スパナ等)で締め付けてください。締め付け不足、締め付け過ぎにならないようにしてください。(締め付けトルクの目安=約2000N・cm)
- 薄内の接続管(ニップル等)には、逆止弁ジョイントを接続しないでください。パッキンが切れ、漏水して家財などを漏らすおそれがあります。
- 止水栓がしっかり固定されていることを確認してください。固定されていないと銅パイプが抜け、漏水の原因となります。

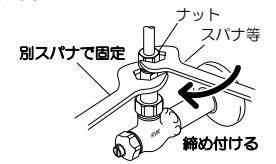


- ④ 3で仮固定していた本体を、工具で確実に締め付けます。

- ⑤ 逆止弁ジョイントが回りしないように、別スパナで二面幅を固定しながらナットを締め付け、銅パイプと逆止弁ジョイントを接続します。

【△注意】

- 接続は適切な工具(スパナ等)で締め付けてください。締め付け不足、締め付け過ぎにならないようにしてください。(締め付けトルクの目安=約2000N・cm)



5 ページ

止水栓との接続（ブレードホース仕様の場合）

4 止水栓との接続（逆止弁付仕様、逆止弁無し仕様共、接続方法は同じです。）

- 逆止弁ジョイントを止水栓に接続します。

【△注意】

- 接続は適切な工具(スパナ等)で締め付けてください。締め付け不足、締め付け過ぎにならないようにしてください。(締め付けトルクの目安=約2000N・cm)
- 薄内の接続管(ニップル等)にはジョイントを接続しないでください。パッキンが切れ、漏水して家財などを漏らすおそれがあります。
- 止水栓がしっかり固定されていることを確認してください。固定されていないとブレードホースが抜け、漏水の原因となります。

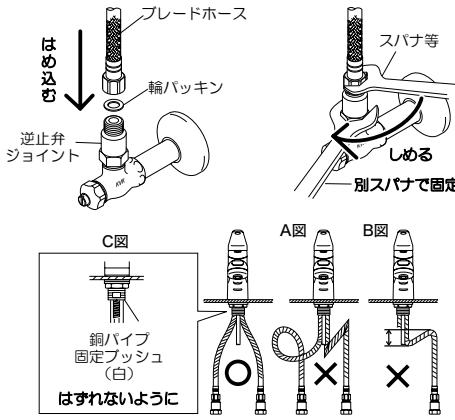


- ブレードホースを逆止弁ジョイントに接続します。この時必ず逆止弁ジョイントを別スパナで固定しながら締め付けてください。

【△注意】

- 接続は適切な工具(スパナ等)で締め付けてください。締め付け不足、締め付け過ぎにならないようしてください。(締め付けトルクの目安=約2000N・cm)
- ブレードホースはR60以上の大きな曲げ半径になるように曲げてください。鋭角に曲げたり、混合栓根元で曲げたりしないでください。(A図)急に曲げたり折りたりすると、亀裂や破損を起こし、漏水して家財などを漏らすおそれがあります。
- 上下戻り配管はやめてください。(B図)ウォーターハンマーなどでブレードホースが振動した際、屈曲部からの漏水が発生する原因となります。
- ブレードホース同士の接触及び、壁などへのブレードホースの接触は避けてください。接触部から亀裂や破損を起こし、漏水して家財などを漏らすおそれがあります。
- ブレードホースは切断しないでください。

【お願い】ブレードホースを曲げる際、銅パイプ固定ブッシュがはずれない様に注意してください。(C図)



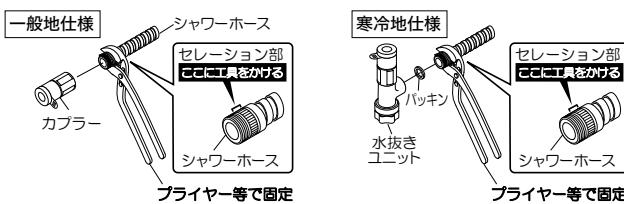
6 ページ

5 シャワーホースの接続

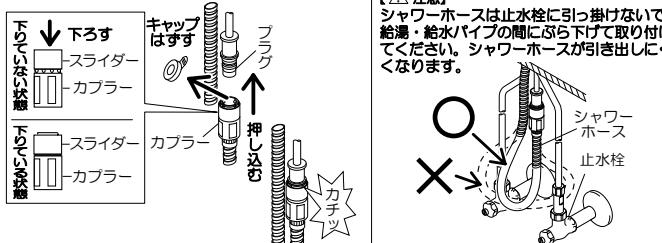
- カブラーをシャワーホースに接続します。（寒冷地仕様は水抜きユニットを、パッキンをはさんで接続します）その際、シャワーホースをブライヤー等で固定して締め付けてください。

【△注意】

- 締め付け不足、締め付け過ぎにならないようにしてください。(締め付けトルクの目安=一般地仕様：約100N・cm、寒冷地仕様：約200N・cm)
- シャワーホースをねじらないでください。シャワーホースが破損するおそれがあります。
- シャワーホースのセレーション部以外には工具をかけないでください。シャワーホースが破損するおそれがあります。
- 【寒冷地仕様のみ】
- 本体のプラグにカブラーを押し込む前に、カブラーと水抜きユニットの接続が緩んでいないか確認してください。緩んでいる場合は、増し締めしてください。(増し締めトルクの目安=約100N・cm)



- カブラーのキャップをはずし、スライダーを下に下ろしてから、本体のプラグヘカチッ音がするまで押し込みます。(スライダーがすでに下に下りている場合もあります)取り付け後、カブラーを引っ張ってはすれないと確認します。



- 【△注意】
カブラー取り付け後、確実に接続されているか、以下の確認を行ってください。確実に接続されていないと、漏水して家財などを漏らすおそれがあります。
- スライダーが5mm程度上がっていること
 - カブラーを真下に引っ張ってはずれないこと
 - 5mm
 - スライダー
 - カブラー

洗面台に水受け用タンクがある場合 シャワーホースの出し入れを繰り返しても確実にタンクに収まるようにしてください。ホースとの接続の銅管部を曲げることにより左右に振ることができます。

取り付け後の点検と清掃

通水確認

【△注意】水栓を取り付け後、通水して漏水の出し止めを5～6回繰り返し、配管接続部及び水栓から水漏れがないことを確認してください。確認しないと、漏水で家財などを漏らす財産損害発生のおそれがあります。

シャワーフェイス・ストレーナ清掃のお願い

シャワーヘッドのシャワーフェイス・ストレーナにゴミ等がつまりますと、吐水量が減ったり、きれいに流れなくなったりしますので、施工後必ず清掃してください。

→ 取扱説明書「日常のお手入れ・保守」参照

湯温・流量調節

レバーハンドルが正面を向いている位置で適温、全開吐水で適量になるように、止水弁で調節します。



故障かなと思ったら…

次のような現象は故障ではありません。修理を依頼される前に下記の表に従っても一度お確かめください。

| 現象 | お調べいただくところ | 処置 | 参照ページ及び項目 |
|------------------|--|-------------------------|--------------------------------|
| 吐水量が少ない | 止水弁は十分に開いていますか | 止水弁を開ける | 8ページ「湯温・流量調節」 |
| | シャワーフェイス・ストレーナにゴミ等がつまっていますか | シャワーフェイス・ストレーナを清掃する | 取扱説明書6ページ「シャワーフェイス・ストレーナの清掃方法」 |
| 高温しか出ない | ガス給湯機と組合せてご使用の場合、能力切換式のものでは適正能力にセットされていますか | ガス給湯機の能力を適正能力にセットする | — |
| | シャワーフェイス・ストレーナは凍っていますか | シャワーフェイス・ストレーナにぬるま湯をかける | — |
| 水側止水弁は十分に開いていますか | 止水弁を開ける | 8ページ「湯温・流量調節」 | |
| 低温しか出ない | 給湯機から十分な湯がきていますか | 給湯機の設定温度・作動を確認する | — |
| | 湯側止水弁は十分に開いていますか | 湯側止水弁を開ける | 8ページ「湯温・流量調節」 |
| 温度調節がうまくできない | 湯側・水側止水弁は十分に開いていますか | 湯側・水側止水弁を開ける | 8ページ「湯温・流量調節」 |
| | シャワーフェイス・ストレーナにゴミ等がつまっていますか | シャワーフェイス・ストレーナを清掃する | 取扱説明書6ページ「シャワーフェイス・ストレーナの清掃方法」 |
| 吐水が飛び散る | シャワーフェイス・ストレーナにゴミ等がつまっていますか | シャワーフェイス・ストレーナを清掃する | 取扱説明書6ページ「シャワーフェイス・ストレーナの清掃方法」 |

【カートリッジのメンテナンスをする場合】

【△注意】修理技術者以外の人は水栓本体内部を分解しないでください。故障や漏水の原因になります。カートリッジのメンテナンスは、取扱店・販売店またはKVK修理受付センターにご依頼ください。

7 ページ

8 ページ